

厚生労働省行政事業レビュー外部有識者会合 議事概要

1. 日 時

平成 27 年 11 月 2 日（月） 10 : 00 ~ 11 : 30

2. 場 所

厚生労働省大臣官房会計課会議室

3. 出 席 者

外部有識者：井出委員、栗原委員、長崎委員、増田委員、横田委員

厚生労働省：大臣官房会計課長、会計企画官

4. 議 事 内 容

厚生労働省から資料に基づき、「平成 27 年度における公開プロセス対象事業」、「公開プロセス対象事業から外れた候補事業」、「長年続いている事業」、及び「外部有識者点検対象事業のレビュー点検結果」等についての説明があり、翌年度の取組に向けた改善点等について意見交換、質疑応答が行われた。

なお、外部有識者からの主なコメントは次のとおり。

○ 公開プロセスについて

- ・ 公開プロセスの議論の中では、評価結果としていずれか 1 つの選択肢に集約できない場合もあるのではないかと。選択肢は複数でも、議論の内容を認識することで有効と思われる。
- ・ 対象事業について、類似・関連する他の事業との重複を考慮した上での有効性を判断することに限界を感じた。改善に向けて検討していけないか。
- ・ 公開プロセスでの説明で「レビューシート」と「事業概要」の数値にギャップがあると、議論の対象がどこなのかという話で時間を取られてしまうので、資料について、数値の採り方を揃えてもらいたい。
- ・ 金額が 2、3 億円の事業は取り上げる必要性が低いという意見もあったが、金額の多寡だけで判断すべきものではない。

○ 行政事業レビューシートについて

- ・ 概算要求における反映状況において「廃止」としている事業について、「廃止」としながら、他の同じような事業に衣替えをただけになっていないか、注意して見ていくことが大事。

- ・ 啓発普及活動の成果の捉え方について、施策目的に照らして成果の捉え方を柔軟に考えても良いのではないか。
- ・ 何年も執行率の低い事業が継続されている場合は何らかの理由の説明が必要。
- ・ 企画競争でありながら実質的には競争性が乏しい（1者応札）事業が見受けられたので、そういった事業についてはもっと競争性を導入していく必要がある。
- ・ 大規模な新規案件で成果が把握しづらいものがある。特に、基金事業は、基金拠出で完結するのではなく、拠出後の個々のプロジェクトの達成状況を含めて事業の有効性をレビューしていくことが有効なのではないか。
- ・ 事業毎のメリハリをつける上で、「事業終了年度」の記載やアウトカム・アウトプットの設定をできるだけお願いしたい。

－以上－